

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第104期第2四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）
【会社名】	三櫻工業株式会社
【英訳名】	Sanoh Industrial Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 篠原 利幸
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿一丁目2番23号
【電話番号】	03（5793）8411（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員財務管理部長 篠原 良幸
【最寄りの連絡場所】	茨城県古河市本町四丁目2番27号
【電話番号】	0280（33）1121（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員財務管理部長 篠原 良幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、退職給付制度の一つとして、連合型の厚生年金基金に加入しております。厚生年金基金の年金資産の持分については、厚生年金基金全体に占める当社に係る「年金財政計算における数理債務の額から年金財政計算における未償却過去勤務債務を控除した額」の比率（以下、「数理債務比」）で按分しております。この年金資産持分を基に、退職給付引当金を算定しております。

これまで当社では、数理債務比について、年金資産は加入者の年金掛金を原資として構成されていることから、加入者のみの比率を採用しておりました。しかしながら、2011年6月に就任した現会計監査人有限責任監査法人トーマツから、会計基準は年金者（年金受給者、受給待期者）を含めた全体の数理債務比で按分することを前提としており、合理的かつ一般的でもあり、この方法に訂正すべきとの指摘がありました。当社は現会計監査人の指摘に対する意見を前会計監査人から徴求したうえで、連合型厚生年金基金のしくみを考慮し、年金者を含めた全体の数理債務比で按分することが望ましいと判断しました。これを訂正するため、平成23年11月14日に提出した第104期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

訂正後の四半期連結財務諸表につきましては、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

なお、四半期連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所についてはXBRLの修正も行いましたので、併せて修正後のXBRL形式のデータ一式（表示情報ファイルを含む）を提出いたします。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

(四半期連結損益計算書関係)

(セグメント情報等)

(1株当たり情報)

3【訂正箇所】

訂正箇所は_を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第103期 第2四半期連結 累計期間	第104期 第2四半期連結 累計期間	第103期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高（百万円）	40,605	35,226	79,768
経常利益（百万円）	<u>3,743</u>	<u>807</u>	<u>6,182</u>
四半期（当期）純利益（百万円）	<u>1,975</u>	<u>388</u>	<u>3,189</u>
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	<u>1,685</u>	<u>△16</u>	<u>2,858</u>
純資産額（百万円）	<u>36,230</u>	<u>36,407</u>	<u>37,054</u>
総資産額（百万円）	<u>67,206</u>	<u>64,760</u>	<u>67,872</u>
1株当たり四半期（当期）純利益金 額（円）	<u>56.20</u>	<u>10.61</u>	<u>88.81</u>
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	<u>51.1</u>	<u>53.1</u>	<u>51.5</u>
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	3,899	△241	8,549
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△3,167	△2,959	△5,323
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△445	378	△408
現金及び現金同等物の四半期末（期 末）残高（百万円）	9,472	9,134	11,939

回次	第103期 第2四半期連結 会計期間	第104期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額（△） （円）	<u>24.53</u>	<u>△3.26</u>

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当り四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第103期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

(訂正後)

回次	第103期 第2四半期連結 累計期間	第104期 第2四半期連結 累計期間	第103期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高 (百万円)	40,605	35,226	79,768
経常利益 (百万円)	3,657	727	6,011
四半期 (当期) 純利益 (百万円)	1,924	341	3,087
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,634	△63	2,756
純資産額 (百万円)	35,372	35,450	36,145
総資産額 (百万円)	67,789	65,410	68,489
1株当たり四半期 (当期) 純利益金 額 (円)	54.75	9.30	85.97
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	49.4	51.1	49.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,899	△241	8,549
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,167	△2,959	△5,323
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△445	378	△408
現金及び現金同等物の四半期末 (期 末) 残高 (百万円)	9,472	9,134	11,939

回次	第103期 第2四半期連結 会計期間	第104期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	23.80	△3.91

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第103期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

第2【事業の状況】

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における経営環境は、日本では、東日本大震災の影響により落ち込んだ生産活動が徐々に持ち直しつつありますが、急激な円高の進行などにより、依然として厳しい状況が続いております。海外では、新興国を中心に景気の拡大傾向が続いているものの、米国での景気減速や欧州での金融不安などにより、先行きへの不透明感が増しております。

このような環境のなか、当社グループの主力製品である自動車・輸送用機器用配管製品ならびに自動車用樹脂製品は、期前半の自動車メーカーによる減産が大きく影響し、前年同期と比べて生産が大幅に減少いたしました。

その結果、売上高は、352億26百万円（前年同期比13.2%減少）となりました。利益面につきましては、前期から取り組んできた構造改革によるコスト削減を継続してまいりました。しかしながら、売上の減少が大きく影響し、経常利益は8億7百万円（前年同期比78.4%減少）、四半期純利益は3億88百万円（前年同期比80.3%減少）と、大幅な減益となりました。

製品別では、車輛配管製品（ブレーキ・燃料配管用等）、エンジンシステム向けのブレイジング製品（燃料噴射用、冷却水循環用、オイル冷却用等）、樹脂製品（クイックコネクター、樹脂チューブ製品等）及び車輛安全製品（シートベルト用）のいずれの製品も、前年同期と比べて売上げが減少いたしました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①日本

3月に発生した東日本大震災の影響により、取引先自動車メーカー各社からの受注が減少いたしました結果、売上高は185億57百万円（前年同期比17.2%減少）、セグメント利益は8億5百万円（前年同期比66.0%減少）と減収減益となりました。

②北南米

取引先自動車メーカー各社からの受注の減少により、売上高は82億30百万円（前年同期比14.8%減少）、50百万円のセグメント損失（前年同期セグメント利益8億40百万円）となりました。

③アジア

タイ、インドをはじめとする東南アジアにおける自動車市場は引き続き堅調に推移いたしました。円高による為替等の影響を受け、売上高は44億51百万円（前年同期比2.5%減少）、セグメント利益は4億92百万円（前年同期比27.3%減少）となりました。

④中国

中国自動車市場は引き続き堅調に推移いたしました。円高による為替等の影響を受け、売上高は24億85百万円（前年同期比5.4%減少）、セグメント利益は28百万円（前年同期比92.1%減少）となりました。

⑤欧州

取引先自動車メーカーからの受注が増加したことにより、売上高は15億2百万円（前年同期比12.8%増加）となりました。49百万円のセグメント損失（前年同期65百万円のセグメント損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動により2億41百万円減少（前年同四半期は38億99百万円増加）、投資活動により29億59百万円減少（前年同四半期は31億67百万円減少）、財務活動により3億78百万円増加（前年同四半期は4億45百万円減少）などの結果、当第2四半期連結会計期間末には91億34百万円（前年同四半期は94億72百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動に使用された資金は、主力製品である自動車・輸送用機器用配管製品ならびに自動車用樹脂製品の生産減少により、税金等調整前四半期純利益が8億6百万円（前年同四半期は31億55百万円）となり、また、減価償却費が19億81百万円（前年同四半期は20億75百万円）、売上債権の減少による資金増17億77百万円（前年同四半期は6億32百万円減少）、たな卸資産の増加による資金減が11億19百万円（前年同四半期は8億54百万円減少）、仕入債務の減少による資金減が35億98百万円（前年同四半期は7億99百万円増加）などにより、2億41百万円（前年同四半期は38億99百万円増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動に使用された資金は、自動車部品事業を中心とした有形固定資産の取得による支出28億24百万円（前年同四半期は21億44百万円）等により、29億59百万円（前年同四半期は31億67百万円）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動により得られたキャッシュ・フローは、短期借入金の増加による収入11億45百万円（前年同四半期は11億8百万円の支出）、長期借入金の減少による支出1億35百万円（前年同四半期は7百万円の収入）、配当金の支払による支出3億48百万円（前年同四半期は3億16百万円の支出）、自己株式の取得による支出2億円（前年同四半期は9億92百万円の収入）等により、3億78百万円（前年同四半期は4億45百万円の支出）となりました。

（訂正後）

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における経営環境は、日本では、東日本大震災の影響により落ち込んだ生産活動が徐々に持ち直しつつありますが、急激な円高の進行などにより、依然として厳しい状況が続いております。海外では、新興国を中心に景気の拡大傾向が続いているものの、米国での景気減速や欧州での金融不安などにより、先行きへの不透明感が増しております。

このような環境のなか、当社グループの主力製品である自動車・輸送用機器用配管製品ならびに自動車用樹脂製品は、期前半の自動車メーカーによる減産が大きく影響し、前年同期と比べて生産が大幅に減少いたしました。

その結果、売上高は、352億26百万円（前年同期比13.2%減少）となりました。利益面につきましては、前期から取り組んできた構造改革によるコスト削減を継続してまいりました。しかしながら、売上の減少が大きく影響し、経常利益は7億27百万円（前年同期比80.1%減少）、四半期純利益は3億41百万円（前年同期比82.3%減少）と、大幅な減益となりました。

製品別では、車輛配管製品（ブレーキ・燃料配管用等）、エンジンシステム向けのブレイジング製品（燃料噴射用、冷却水循環用、オイル冷却用等）、樹脂製品（クイックコネクタ、樹脂チューブ製品等）及び車輛安全製品（シートベルト用）のいずれの製品も、前年同期と比べて売上げが減少いたしました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①日本

3月に発生した東日本大震災の影響により、取引先自動車メーカー各社からの受注が減少いたしました結果、売上高は185億57百万円（前年同期比17.2%減少）、セグメント利益は7億24百万円（前年同期比68.2%減少）と減収減益となりました。

②北南米

取引先自動車メーカー各社からの受注の減少により、売上高は82億30百万円（前年同期比14.8%減少）、50百万円のセグメント損失（前年同期セグメント利益8億40百万円）となりました。

③アジア

タイ、インドをはじめとする東南アジアにおける自動車市場は引き続き堅調に推移いたしました。円高による為替等の影響を受け、売上高は44億51百万円（前年同期比2.5%減少）、セグメント利益は4億92百万円（前年同期比27.3%減少）となりました。

④中国

中国自動車市場は引き続き堅調に推移いたしました。円高による為替等の影響を受け、売上高は24億85百万円（前年同期比5.4%減少）、セグメント利益は28百万円（前年同期比92.1%減少）となりました。

⑤欧州

取引先自動車メーカーからの受注が増加したことにより、売上高は15億2百万円（前年同期比12.8%増加）となりました。49百万円のセグメント損失（前年同期65百万円のセグメント損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動により2億41百万円減少（前年同四半期は38億99百万円増加）、投資活動により29億59百万円減少（前年同四半期は31億67百万円減少）、財務活動により3億78百万円増加（前年同四半期は4億45百万円減少）などの結果、当第2四半期連結会計期間末には91億34百万円（前年同四半期は94億72百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動に使用された資金は、主力製品である自動車・輸送用機器用配管製品ならびに自動車用樹脂製品の生産減少により、税金等調整前四半期純利益が7億26百万円（前年同四半期は30億69百万円）となり、また、減価償却費が19億81百万円（前年同四半期は20億75百万円）、売上債権の減少による資金増17億77百万円（前年同四半期は6億32百万円減少）、たな卸資産の増加による資金減が11億19百万円（前年同四半期は8億54百万円減少）、仕入債務の減少による資金減が35億98百万円（前年同四半期は7億99百万円増加）などにより、2億41百万円（前年同四半期は38億99百万円増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動に使用された資金は、自動車部品事業を中心とした有形固定資産の取得による支出28億24百万円（前年同四半期は21億44百万円）等により、29億59百万円（前年同四半期は31億67百万円）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動により得られたキャッシュ・フローは、短期借入金の増加による収入11億45百万円（前年同四半期は11億8百万円の支出）、長期借入金の減少による支出1億35百万円（前年同四半期は7百万円の収入）、配当金の支払による支出3億48百万円（前年同四半期は3億16百万円の支出）、自己株式の取得による支出2億円（前年同四半期は9億92百万円の収入）等により、3億78百万円（前年同四半期は4億45百万円の支出）となりました。

第4【経理の状況】

2. 監査証明について

(訂正前)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第103期連結会計年度 至誠監査法人

第104期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間 有限責任監査法人トーマツ

(訂正後)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第103期連結会計年度 至誠監査法人

第104期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間 有限責任監査法人トーマツ

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受け、改めて四半期レビュー報告書を受領しております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,070	9,266
受取手形及び売掛金	13,347	11,496
商品及び製品	2,856	2,832
仕掛品	2,259	2,377
原材料及び貯蔵品	4,367	5,310
繰延税金資産	424	432
その他	1,384	1,359
流動資産合計	36,706	33,072
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,016	13,172
機械装置及び運搬具	39,836	40,830
工具、器具及び備品	6,252	6,635
土地	3,915	3,916
リース資産	199	221
建設仮勘定	1,389	1,806
減価償却累計額	△41,704	△42,880
減損損失累計額	△287	△287
有形固定資産合計	22,615	23,414
無形固定資産		
リース資産	113	98
その他	371	374
無形固定資産合計	484	472
投資その他の資産		
投資有価証券	4,968	4,174
繰延税金資産	2,612	3,069
その他	487	560
投資その他の資産合計	8,067	7,803
固定資産合計	31,166	31,688
資産合計	67,872	64,760

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,303	8,614
短期借入金	4,072	5,151
未払金	1,679	2,112
リース債務	82	81
未払法人税等	910	410
賞与引当金	669	693
製品保証引当金	315	285
その他	991	1,022
流動負債合計	21,020	18,368
固定負債		
長期借入金	1,927	1,792
リース債務	160	143
退職給付引当金	7,508	7,855
役員退職慰労引当金	202	195
固定負債合計	9,797	9,985
負債合計	30,818	28,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,481	3,481
資本剰余金	2,998	2,998
利益剰余金	30,401	30,440
自己株式	△276	△476
株主資本合計	36,603	36,443
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,418	940
繰延ヘッジ損益	△15	△9
為替換算調整勘定	△3,023	△2,975
その他の包括利益累計額合計	△1,619	△2,043
少数株主持分	2,071	2,008
純資産合計	37,054	36,407
負債純資産合計	67,872	64,760

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,070	9,266
受取手形及び売掛金	13,347	11,496
商品及び製品	2,856	2,832
仕掛品	2,259	2,377
原材料及び貯蔵品	4,367	5,310
繰延税金資産	424	432
その他	1,384	1,359
流動資産合計	36,706	33,072
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,016	13,172
機械装置及び運搬具	39,836	40,830
工具、器具及び備品	6,252	6,635
土地	3,915	3,916
リース資産	199	221
建設仮勘定	1,389	1,806
減価償却累計額	△41,704	△42,880
減損損失累計額	△287	△287
有形固定資産合計	22,615	23,414
無形固定資産		
リース資産	113	98
その他	371	374
無形固定資産合計	484	472
投資その他の資産		
投資有価証券	4,968	4,174
繰延税金資産	3,229	3,719
その他	487	560
投資その他の資産合計	8,684	8,452
固定資産合計	31,783	32,338
資産合計	68,489	65,410

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,303	8,614
短期借入金	4,072	5,151
未払金	1,679	2,112
リース債務	82	81
未払法人税等	910	410
賞与引当金	669	693
製品保証引当金	315	285
その他	991	1,022
流動負債合計	21,020	18,368
固定負債		
長期借入金	1,927	1,792
リース債務	160	143
退職給付引当金	9,035	9,462
役員退職慰労引当金	202	195
固定負債合計	11,324	11,592
負債合計	32,345	29,960
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,481	3,481
資本剰余金	2,998	2,998
利益剰余金	29,491	29,483
自己株式	△276	△476
株主資本合計	35,693	35,485
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,418	940
繰延ヘッジ損益	△15	△9
為替換算調整勘定	△3,023	△2,975
その他の包括利益累計額合計	△1,619	△2,043
少数株主持分	2,071	2,008
純資産合計	36,145	35,450
負債純資産合計	68,489	65,410

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	40,605	35,226
売上原価	33,005	30,623
売上総利益	7,601	4,603
販売費及び一般管理費	※1 3,490	※1 3,586
営業利益	4,111	1,017
営業外収益		
受取利息	11	43
受取配当金	31	41
その他	129	84
営業外収益合計	171	169
営業外費用		
支払利息	125	108
為替差損	336	245
その他	79	25
営業外費用合計	540	378
経常利益	3,743	807
特別利益		
固定資産売却益	11	2
特別利益合計	11	2
特別損失		
前期損益修正損	86	—
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	137	3
投資有価証券評価損	74	—
減損損失	112	—
子会社清算損	190	—
特別損失合計	599	3
税金等調整前四半期純利益	3,155	806
法人税、住民税及び事業税	1,128	429
法人税等調整額	△122	△123
法人税等合計	1,006	306
少数株主損益調整前四半期純利益	2,149	500
少数株主利益	174	112
四半期純利益	1,975	388

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	40,605	35,226
売上原価	33,077	30,691
売上総利益	7,528	4,535
販売費及び一般管理費	※1 3,503	※1 3,599
営業利益	4,025	936
営業外収益		
受取利息	11	43
受取配当金	31	41
その他	129	84
営業外収益合計	171	169
営業外費用		
支払利息	125	108
為替差損	336	245
その他	79	25
営業外費用合計	540	378
経常利益	3,657	727
特別利益		
固定資産売却益	11	2
特別利益合計	11	2
特別損失		
前期損益修正損	86	—
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	137	3
投資有価証券評価損	74	—
減損損失	112	—
子会社清算損	190	—
特別損失合計	599	3
税金等調整前四半期純利益	3,069	726
法人税、住民税及び事業税	1,128	429
法人税等調整額	△157	△156
法人税等合計	971	273
少数株主損益調整前四半期純利益	2,098	453
少数株主利益	174	112
四半期純利益	1,924	341

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,149	500
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△228	△478
繰延ヘッジ損益	16	6
為替換算調整勘定	△252	△44
その他の包括利益合計	△464	△516
四半期包括利益	1,685	△16
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,584	△36
少数株主に係る四半期包括利益	101	20

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,098	453
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△228	△478
繰延ヘッジ損益	16	6
為替換算調整勘定	△252	△44
その他の包括利益合計	△464	△516
四半期包括利益	1,634	△63
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,533	△84
少数株主に係る四半期包括利益	101	20

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】
(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,155	806
減価償却費	2,075	1,981
減損損失	112	—
のれん償却額	25	—
有形固定資産除却損	137	3
投資有価証券評価損益 (△は益)	74	—
子会社清算損益 (△は益)	190	—
受取利息及び受取配当金	△42	△85
支払利息	125	108
有形固定資産売却損益 (△は益)	△11	△2
売上債権の増減額 (△は増加)	△632	1,777
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△854	△1,119
仕入債務の増減額 (△は減少)	799	△3,598
その他	127	874
小計	5,280	746
利息及び配当金の受取額	42	85
利息の支払額	△124	△111
法人税等の支払額	△1,299	△960
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,899	△241
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,144	△2,824
有形固定資産の売却による収入	11	2
投資有価証券の取得による支出	△1,000	△8
その他	△34	△130
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,167	△2,959
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,720	3,039
短期借入金の返済による支出	△3,828	△1,894
長期借入れによる収入	470	683
長期借入金の返済による支出	△463	△818
自己株式の取得による支出	△0	△200
自己株式の処分による収入	992	—
配当金の支払額	△316	△348
少数株主への配当金の支払額	△21	△83
財務活動によるキャッシュ・フロー	△445	378
現金及び現金同等物に係る換算差額	△128	17
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	159	△2,805
現金及び現金同等物の期首残高	9,313	11,939
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 9,472	※1 9,134

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,069	726
減価償却費	2,075	1,981
減損損失	112	—
のれん償却額	25	—
有形固定資産除却損	137	3
投資有価証券評価損益(△は益)	74	—
子会社清算損益(△は益)	190	—
受取利息及び受取配当金	△42	△85
支払利息	125	108
有形固定資産売却損益(△は益)	△11	△2
売上債権の増減額(△は増加)	△632	1,777
たな卸資産の増減額(△は増加)	△854	△1,119
仕入債務の増減額(△は減少)	799	△3,598
その他	212	954
小計	5,280	746
利息及び配当金の受取額	42	85
利息の支払額	△124	△111
法人税等の支払額	△1,299	△960
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,899	△241
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,144	△2,824
有形固定資産の売却による収入	11	2
投資有価証券の取得による支出	△1,000	△8
その他	△34	△130
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,167	△2,959
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,720	3,039
短期借入金の返済による支出	△3,828	△1,894
長期借入れによる収入	470	683
長期借入金の返済による支出	△463	△818
自己株式の取得による支出	△0	△200
自己株式の処分による収入	992	—
配当金の支払額	△316	△348
少数株主への配当金の支払額	△21	△83
財務活動によるキャッシュ・フロー	△445	378
現金及び現金同等物に係る換算差額	△128	17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	159	△2,805
現金及び現金同等物の期首残高	9,313	11,939
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 9,472	※1 9,134

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

(訂正前)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。
運送費 714百万円	運送費 707百万円
従業員給与・賞与 1,335百万円	従業員給与・賞与 1,498百万円
技術研究費 609百万円	技術研究費 629百万円
退職給付費用 64百万円	退職給付費用 63百万円

(訂正後)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は次のとおりであります。
運送費 714百万円	運送費 707百万円
従業員給与・賞与 1,335百万円	従業員給与・賞与 1,498百万円
技術研究費 609百万円	技術研究費 629百万円
退職給付費用 77百万円	退職給付費用 75百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期損 益計算書 計上額 (注2)
	日本	北南米	欧州	中国	アジア	計		
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	22,424	9,659	1,331	2,628	4,563	40,605	—	40,605
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6,615	62	—	163	—	6,840	△6,840	—
計	29,039	9,721	1,331	2,791	4,563	47,445	△6,840	40,605
セグメント利益 又は損失(△)	<u>2,365</u>	840	△65	356	677	<u>4,173</u>	△62	<u>4,111</u>

(注) 1. セグメント利益の調整額には、のれんの償却額△25百万円及びたな卸資産の調整額△45百万円が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期損 益計算書 計上額 (注2)
	日本	北南米	欧州	中国	アジア	計		
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	18,557	8,230	1,502	2,485	4,451	35,226	—	35,226
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6,091	57	—	314	1	6,463	△6,463	—
計	24,649	8,287	1,502	2,799	4,451	41,689	△6,463	35,226
セグメント利益 又は損失(△)	<u>805</u>	△50	△49	28	492	<u>1,226</u>	△209	<u>1,017</u>

(注) 1. セグメント利益の調整額には、たな卸資産の調整額等△217百万円が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(訂正後)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期損 益計算書 計上額 (注2)
	日本	北南米	欧州	中国	アジア	計		
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	22,424	9,659	1,331	2,628	4,563	40,605	—	40,605
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6,615	62	—	163	—	6,840	△6,840	—
計	29,039	9,721	1,331	2,791	4,563	47,445	△6,840	40,605
セグメント利益 又は損失(△)	2,279	840	△65	356	677	4,087	△62	4,025

(注) 1. セグメント利益の調整額には、のれんの償却額△25百万円及びたな卸資産の調整額△45百万円が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期損 益計算書 計上額 (注2)
	日本	北南米	欧州	中国	アジア	計		
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	18,557	8,230	1,502	2,485	4,451	35,226	—	35,226
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6,091	57	—	314	1	6,463	△6,463	—
計	24,649	8,287	1,502	2,799	4,451	41,689	△6,463	35,226
セグメント利益 又は損失(△)	724	△50	△49	28	492	1,145	△209	936

(注) 1. セグメント利益の調整額には、たな卸資産の調整額等△217百万円が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

(訂正前)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	56円20銭	10円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,975	388
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,975	388
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,146	36,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	54円75銭	9円30銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,924	341
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,924	341
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,146	36,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

三櫻工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芝田 雅也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沼田 敦士 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三櫻工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三櫻工業株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成23年11月10日にレビュー報告書を提出した。また、会社の平成23年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結累計期間に係る訂正前の四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の訂正前の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成22年11月5日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成23年6月24日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。